



中央地区「お花見会」 盛大に開催!!

4月6日、中央地区恒例のお花見会が開催されました。前日までの好天は一転し、今にも雨が降り出しそうな雲行きに、役員の方々は判断に迷いましたが、早朝から場所取りに敷いたブルーシートも撤収し、会場は急遽大手公民館の大会議室に決まりました。参加した84人の皆さんは、地区役員手作りの料理や豚汁、喫茶山雅のお花見弁当をいただきながら、思い思いの話を華を咲かせました。会が



お花見会の様子

明日、天気にな〜れ
(春休み学習室利用の子どもたちが製作)

満員の会場は満開の桜の下で賑やかで、桜の木の下でなかったのは残念でしたが、お互いの交流を深める楽しいひと時となりました。お花見会の運営にご尽力いただいた役員、スタッフの皆様本当にありがとうございます。(久保田 忠史)



即興のど自慢大会!

中央地区の樹木②

「薬(ひこばえ)」

(切り株や根から生える新芽)

今回の中央地区の樹木は、ちよつと変わった視点から紹介します。

松本城公園を散歩していると、桜の木の周りが白い鎖で囲われている姿を目にします。何のために囲っているのでしょうか?それは桜の木の寿命が近づいていることから、代替わりをさせるために囲っています。

桜の種類は、そめいよしの

味噌仕込み体験



1月30日、味噌仕込み体験を行いました。私は初めての体験です。実家の部屋に味噌玉が並んでいたのを思い出します。

講師は丸正醸造の柏原さんです。

味噌2kgの材料

●大豆1.1kg(一晩水に漬けて柔らかく煮て潰したもの)

●塩240グラム

●米糲500グラム

●水180ml

江戸時代に二つの桜、そめい桜とよしの桜を掛け合わせて作られた種類で、その寿命は早いもので60〜70年くらい、植物とすれば短い寿命です。遺伝子を調べてみると同じ一つの遺伝子を持ち、すべてが最初の桜のクローンだということです。そのためこの桜は、種により子孫を残すという繁殖能力がありません。ではどうするのかというと、切り株や根から生えてくる新芽、ひこばえを育てて大きくし、親木と切り替えていく方法が、そめいよしのを代替わりさせる方法です。

●種味噌
大豆や糲は丸正さんが下さりえしてくれました。まず手首までしっかりと消毒し殺菌します。ナイロン袋に材料を入れ、しっかりと混ぜてから中の空気をよく抜いて味噌玉を作り、袋ごと容器に詰めます。6ヶ月〜10ヶ月熟成させて出来上がりです。時々見て白いカビが生えることがあります。これは酵母菌で心配ないそうです。黒いカビの時は丸正醸造さんに相談です。出来上がったお味噌の味は、またご報告させていただきます。



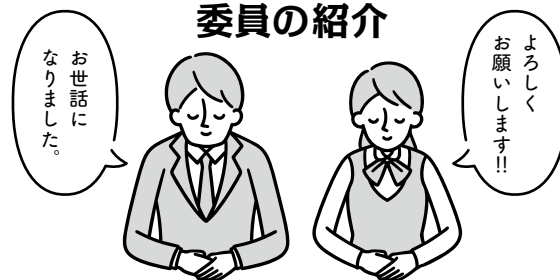
みそ仕込み中



▲桜の薬(ひこばえ)

やがて大きく育ったひこばえが、親木に替わって立派な桜の木になっていくのをもう少し待ちましょう。(宇留賀 勝)

とても簡単に作れますので来年は是非とも手前味噌を作ってみませんか?(澤田 昭子)

新任・退任職員及び
委員の紹介

新任職員・委員挨拶

中央地区地域づくりセンター長

中村 史子

4月から中央地区地域づくりセンター長として着任いたしました中村史子と申します。地域の皆様と一緒に、暮らしやすく温かいまちを育んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大手公民館主事

小林 泰

4月から大手公民館に配属になりました。小林 泰と申します。微力ですが、中央地区の地域づくりのお手伝いをさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

館報編集委員

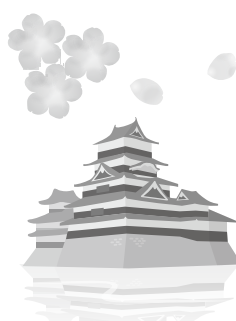
上條 直利

この度、館報編集委員の仲間入りをさせていただきました。生まれも育ちも二ノ丸町。そんな地元のお手伝いのできればと思っています。よろしく申し上げます。

館報編集委員

杉江 夏実

社会人2年目の杉江夏実です。学生の時、公民館報の編集委員を務めていました。少しブランクがありますが、また楽しく記事を書いていきたいと思っています！



退任職員挨拶

前中央地区地域づくりセンター長
宇留賀 真理子

私と大手公民館の出会いは、今を去ること2年前の春でした。緊張と不安が入り混じる気持ちで着任し、最初に感じたのは「意外と忙しい」。次から次へと人が訪ねてきて自己紹介されたり、お菓子をいただいたり、麻○や花○に誘われたり…気付いたら一日が終わっていました（ちゃんとお仕事もしましたよ！）

そんな毎日を送る中、次に感

じたことが「みんなおしゃれ」。公民館に来る女性はもちろんのこと、男性もハットを被っていたり、ブランド物を着ていたり、おしゃれなスニーカーを履いていたり、さすがお町の人は違うなあと感じたものです。（ホントですよ！）そして大手公民館を離れた今、一番感じているのが「人の温かさ」です。公民館に来ると事務室を覗いて声をかけたり手を振ってくれたり、おしゃべりしながら一緒に料理を作ったり、泥だらけになって花を植えたりした思い出は、私の中では忘れがたいものと感じています。地区の皆さんは、これまで多くの職員をこんな風に

前大手公民館主事

中條 克明

「また春休みに来るから、公民館無くならないでね！」小学生の言葉が印象に残っています。地域に愛される公民館をぜひ続けてください！



長元坊 チョウゲンボウ

「松本城が好きだ」

本丸庭園内の東北から5つの天守群を見るのが一番好きです。間近で見る迫力感と黒と白のコントラスト。全国の多くの城を回ってみた私も、ここ以上の城はないと思っています。もちろん、南西からの水堀越しの姿も南東からのアルプスを背にした姿、朱色の埋橋越しの天守もみんな素晴らしい。

本当に地元愛が強いなあと思っています。松本の人々に共通するところでしょうか。松本山雅への愛も地方都市の中では断トツでしょう。負けるのを見るのが悔しいからテレビを消してしまふこともあります。全国を旅しても「出身はどちら」と聞かれると「松本です」と答えることが多いのです。

そして、仲間を大切するのも大きな特徴。一見、よそ者には冷たいようにも思われますが、心の中は違います。みんな温かい。特に中央地区の人は温かい。今年も多くの事業が行われますが、ぜひ、公民館、ひろばに顔をだしてみませんか。大歓迎しますよ。

「中央地区が好きだ」が合言葉になれば和が広がりますね。

(上條 直利)